

## Fact Sheet

### 鳩山春子 —人物解題—

鳩山春子は、文久元(1861)年3月、松本藩士渡邊努、賢子の五女として信州松本に生まれた。幼少時代から勉学を好み、5歳の頃には近傍の私塾に通い、論語、孟子、習字などを学んだ。13歳で父に伴われて上京し、官立の東京女学校(通称竹橋女学校)に入学。これまで習ったことのなかった英語で苦勞するも、持ち前の奮闘力で最上位クラスに飛び級で編入される。しかし、同校は政府の都合で明治10(1877)年廃校となり、新たに設けられた東京女子師範学校の「特別英学科」に不本意ながら入学。同校を明治11(1878)年主席で卒業し、東京女子師範学校本科に入学。就寝時間を惜しみ「三尺戸棚と云はれた寝具入れの戸棚に入つて、僅に燈心一本の光で、二時間ばかり勉強した」(鳩山一郎『亡き母を偲びて』)という。



少女時代の鳩山春子

明治12(1879)年加藤錦子、丸橋光子らと共にフィラデルフィア府女子師範学校への留学の辞令が下るが、閣内に女性の留学に反対するものがいて中止となる。傷心のまま師範学校本科に復学、さらに猛勉強を続ける。明治14(1881)年7月に卒業。8月より同校の小学校訓導として奉職するが、鳩山和夫との結婚を機にわずか3ヶ月で退職。夫君の意向に従い当時一般的でなかった米国式の結婚披露宴を行った。しかし、学問は得意であっても、家事一般の経験のなかった春子には、気苦勞の多い新婚生活だったという(鳩山春子『我が自叙伝』)。

明治16(1883)年1月第一子一郎誕生。翌年2月には第二子秀夫が誕生。育児に多忙をきわめる中、明治17(1884)年6月、当時の校長那珂通世の薦めで再び東京女子師範学校の御用掛として奉職。折しも、東京女子師範学校と東京師範学校の突然の合併という出来事があり、明治19(1886)年4月、官立女子師範学校の教育方針に疑問をもっていた教員の宮川保全、渡邊辰五郎らが女子の技術教育を目指す共立女子職業学校を創設。宮川保全の東京女学校時代の教え子で、東京女子師範学校では同僚であった鳩山春子も発起人に名前を連ねることになる。ただし、春子自身は当初高等女学校の設立を望んでいたという。

新設された高等女学校の御用掛を拝命していた春子は、兼任として共立女子職業学校で英語の授業を明治25(1892)年まで担当した。また、明治24(1891)年から3年間、同校裁縫科の末席に連なり裁縫を学んだという。その一方、夫と共に鹿鳴館の舞踏会に出向くというハイカラな一面もあった。

(裏面につづく)

女性の実業教育のはじまり  
〜チャレンジした女性たち〜

## Fact Sheet

明治28(1895)年11月、大日本女学会を組織し、高等女学校がない地方の学生のために通信教授を開始、明治32(1899)年1月には、財団法人となった共立女子職業学校の商議員となった。明治34(1901)年、愛国婦人会創立の発起人として尽力。明治44(1911)年夫・和夫の死後、共立女子職業学校に新設された家庭科の監督となり、名誉教員として修身と家庭教育を教授。大正11(1922)年12月には同校の校長となる。大正14(1925)年4月に併置された専門学校の校長も兼務。昭和3(1928)年11月、叙勲五等授瑞宝章受章する。昭和13(1938)年7月、脳溢血のために死去。享年77歳。

女子教育だけでなく、生涯にわたり婦人啓蒙運動、育英事業にも尽力。また、二人の息子の家庭教育でも有名、良妻賢母の鑑とされる。著書に『婦人の修養』(明治40(1907)年)『我が子の教育』(大正8(1919)年)『我が自叙伝』(昭和4(1929)年)等がある。



晩年の鳩山春子

(共立女子短期大学文科教授・高橋修)  
(写真所蔵:共立女子大学・短期大学図書館)

女性の実業教育のはじまり  
〜チャレンジした女性たち〜

## Fact Sheet

### 鳩山春子 —良妻賢母の鑑

#### 「良妻賢母」主義の教育

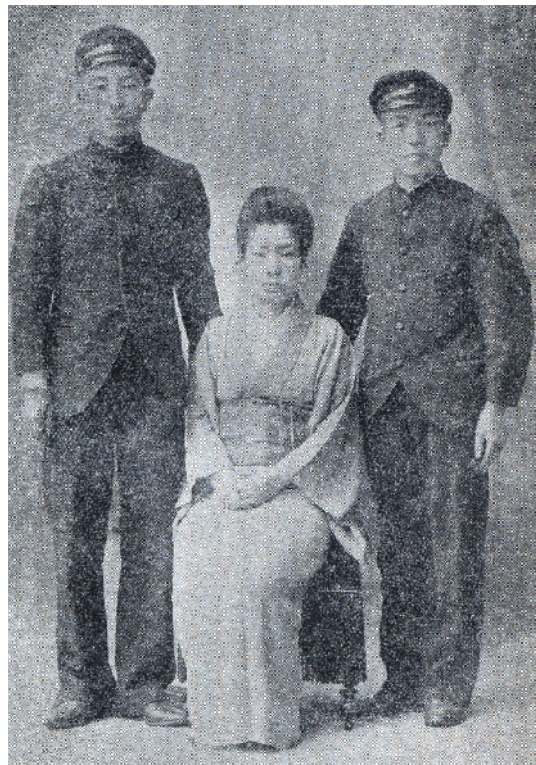
女性史研究家高群逸枝は『女性の歴史』（講談社）で「良妻賢母主義」を「信奉して実践し、体現したひと」の代表として鳩山春子をあげている。「賢母」として二人の息子を社会的に有為な人物（総理大臣と民法学者）に育て上げたことはよく知られているが、自身が職業人として社会貢献を始めたのは意外にも晩年に近い。子どもが独立し、夫・和夫が死去した後、まさに「良妻賢母」の桎梏から自由になってからである。

共立女子職業学校校長手島精一の求めに応じて、新設された家庭科の監督に就任するのは52歳の時である。しかし、この時代には、女子の職業教育に対するニーズも理念も大きく様変わりしていた。明治34（1901）年に文部大臣に就任した菊池大麓（次男・秀夫の妻千代子の父）の大日本婦人教育会での演説、「一般の女子は是等の職業に就き独立して男子と併立し競争するのは其

本分にあらず、成長の後は男子と結婚し、一家の主婦となって良妻賢母たる事が、即ち女子の天職であると私は考へるのであります」が示すように、「良妻賢母」教育の名のもとに女性が改めて家庭に囲い込まれようとしていた。春子も、長男の嫁薰とともに著した『家政（改訂版）』（桜友会、1929年）の序で、次のように述べている。

「然らば婦人の往く可き途、与へられたる使命とは何んでありませう。私は良妻となり、賢母となり、善良なる一家の主婦となつて、健全なる家庭生活を営む所に在ると信じます。或る人はそれを婦人が男子に対する屈従であるかの様に考へられますが、私は寧ろそこに婦人の尊い一切の価値が発現すると信ずるので御座います。」

「職業」に就いて「独立」するよりも「主婦」として「健全な家庭生活を営む」。春子が明治初年に受けた開明的な平等教育から、儒教的倫理観にもつながる良妻賢母教育へと至る明治女子教育の変遷を、鳩山春子自身の閥歴が身をもって示していると考えられる。



鳩山春子と尋常中学時代の息子たち  
（右より秀夫 春子 一郎）

（共立女子短期大学文科教授・高橋修）  
（写真所蔵：共立女子大学・短期大学図書館）

（裏面につづく）

独立行政法人 国立女性教育会館



## Fact Sheet

### 鳩山春子 年譜

年代	年齢	
1861 (文久元) 年	0歳	父渡邊努(信州松本藩の藩士)、母賢子の五女(姉四人兄一人の末子として長野県松本市に生まれる。
1874 (明治7) 年	13歳	父に伴われて上京し東京女学校(通称竹橋女学校)に入学。
1877 (明治10) 年	16歳	東京女学校廃止につき東京女子師範学校別科英学科に入学。
1878 (明治11) 年	17歳	東京女子師範学校別科英学科を主席で卒業。 東京女子師範学校本科に入学。
1879 (明治12) 年	18歳	米国フィラデルフィア府女子師範学校留学の辞令が下りるが、政府の都合により留学が中止。東京女子師範学校師範科に復学し、一級昇進する。
1881 (明治14) 年	20歳	東京女子師範学校卒業。東京女子師範学校に小学校訓導として奉職。 鳩山和夫と結婚。同校を退職。
1883 (明治16) 年	21歳	長男一郎(後の内閣総理大臣)を出産。
1884 (明治17) 年	22歳	次男秀夫(後の東京帝国大学教授)を出産。東京女子師範学校御用掛拝命。
1886 (明治19) 年	25歳	新設の東京高等女学校御用掛拝命。 宮川保全・渡邊辰五郎らの共立女子職業学校創設に参画。高等女学校での本務の傍ら、英語を教授する。
1895 (明治28) 年	34歳	大日本女学会を組織し、高等女学校の設備がない地方の学生のために通信教授を行う。
1899 (明治32) 年	37歳	共立女子職業学校の財団法人化にともない商議員となる。
1901 (明治34) 年	40歳	夫・和夫に同伴して欧米を漫遊。愛国婦人会創立に際し発起人となる。
1904 (明治37) 年	43歳	出征軍人家族慰問婦人会を組織し、理事となる。
1911 (明治44) 年	50歳	夫・和夫逝去。享年55歳。
1912 (明治45) 年	51歳	共立女子職業学校に家庭科が新設されるにあたり、当時の校長・手島精一の推挙で監督となる。修身、家庭教育を担当。
1916 (大正5) 年	55歳	共立女子職業学校の副校長となる。
1922 (大正11) 年	61歳	宮川保全の死去をうけて共立女子職業学校第六代校長となる。
1923 (大正12) 年	62歳	共立女子職業学校の校舎・寄宿舎が関東大震災により罹災。 復興に全力を尽くす。
1924 (大正13) 年	62歳	叙勲六等授瑞宝章受章。
1925 (大正14) 年	64歳	共立女子職業学校に専門学校を併置、初代校長となる。
1927 (昭和2) 年	66歳	ローマ法王より1925年聖年祭記念布教博覧会功労賞を受賞。 日本婦人海外協会顧問を嘱託。
1928 (昭和3) 年	67歳	共立女子職業学校長に続いて共立女子専門学校長を兼任する。 叙勲五等授瑞宝章受章。
1938 (昭和13) 年	77歳	脳溢血により逝去。

### 参考文献：

- 鳩山春子『自叙伝』(私家版、1930年)  
 手島工業教育資金団『手島精一先生伝』(手島工業教育資金団、1929年)  
 高瀬荘太郎編『共立女子学園七十年史』(共立女子学園、1956年)  
 共立女子学園百年史編纂委員会編『共立女子学園百年史』(共立女子学園、1986年)  
 高群逸枝『女性の歴史』下(講談社、1958年)  
 窪田祥宏「良妻賢母教育思想の形成とその役割」(『日本大学人文学科研究所研究紀要』20号、1978年)  
 「鳩山春子」(鳩山会館ホームページ[http://www.hatoyamakaikan.com/family/main\\_haruko.html](http://www.hatoyamakaikan.com/family/main_haruko.html))

独立行政法人 国立女性教育会館